



本田宗一郎顕彰会

会 報
第 4 号

平成20年3月

Honda Soichiro Society

ミュージカル「本田宗一郎物語」と 記念館と遺品



本田宗一郎顕彰会会長
大橋 武司

平成十九年は本田宗一郎顕彰会にとって大変大きな出来事が重なり、変革の年というに相応しい一年となりました。

春から初夏にかけて、いよいよ「本田宗一郎記念ものづくり伝承館」の建設が始まるということで、多くの方々はその概容をお話したり、どんな運営をしようかと相談したりしてきました。ところが突然「建設は白紙撤回」といった市長の発言、私たちは本当に驚き、戸惑ってしまいました。その後の市当局とのやり取りは地元の自治会長、地域協議会、議員の皆様を始め多くの人々が関わって行われ、その成り行きは衆目を集めてきました。結局旧二俣町庁舎で運営活動をする事になり、地域の皆様の長年の念願が大きく縮小変更されてしまい、私たち顕彰会も大変残念に思っています。しかし今後は旧庁舎の徹底した改築を願ひ、そこを拠点に顕彰活動の内容を充実していくことが肝要であると考えます。会員諸氏並びに地域の皆様方のご協力を切にお願いいたします。

さて、もう一つは、ミュージカル「本田宗一郎物語」を七月に九州別府で上演したことです。本田さち夫人から「障害を持つ多くの人たちが働いている『ホンダ太陽』の皆さんに観ていただきたい。是非別府市で公演して欲しい」との要請を受け、子どもたち五十人余、スタッフを加え全員八十人余のメンバーで別府公演を実施しました。遠く離れた九州で見事な演技を見せ、多くの観客に感動を与えた子どもたちは、計り知れない大きな自信を得ることが出来ました。公演後の楽屋での子どもたちの感動と感激の涙が印象的でした。

今、市の担当者と共に、本田家からお預かりしている本田宗一郎さんの遺品を整理し、データ化する作業に取り組んでいます。記念館が出来、開館できた時には、これらの遺品も多くの皆様に見ていただき、宗一郎さんの業績に改めて触れ、人柄を偲び、その精神を学ぶことができるようになると思っております。



天竜川伊砂橋上方より 本田宗一郎さんのルーツ 船明を望む

本田宗一郎生誕百年記念別府公演

夢 挑戦 実現

本田宗一郎生誕百年記念

別府公演に同行して

副会長 杉山洋一

一昨年、天竜壬生ホールで開催した本田宗一郎生誕百年記念公演が、多くの人々の心を揺さぶったことは、まだ記憶に新しいところです。この公演をご覧になり感激された本田さち夫人が、大分県にある「ホンダ太陽」という会社……ここには障害を持った大勢の方が働いています……の従業員の皆さんにも見せてあげたいとの熱い思いが発端になって、夫人の全面的なご支援と関係者の熱意により、あの感動の舞台が再び実現することになりました。

去年の七月二十八日、子供たちの大きな夢を乗せて、空路大分県別府市に向かいました。

今回の参加者は、ミュージカル出演者三十七人、コンテポラリーダンス出演者十六人、スタッフとしてミュージカル・ダンス関係者、市役所職員、小中学校の教職員、大橋会長以下の顕彰会役員など三十人の計八十三人でした。それ以外にも、行動は別になりましたが、七十人程の関係者が、公演当日会場にお出でになりました。

公演は、別府市にある「ピーコンプラザ」という大変立派なホールで昼夜二回行われました。天竜の壬生ホールよりも広い会場で、子供たちにも緊張の度合いが一段と高まったのではないかと思われま

す。二十九日の本番当日は、昼夜二回の公演となりました。愉快なロボット「アシモ」のショー、(株)ホンダロックの女性従業員の皆さんによる勇壮で華麗な和太鼓演奏が始まって、ダンス、ミュージカルと続きました。地元九州に因んだ台詞も出たりして、会場も大変盛り上がりました。お客さんの手拍子が徐々に大きな波となり、舞台と一体になった瞬間が何度も見られました。ホール全体に、温かい空気が流れているようで、何とも心のやすまる時間帯でした。

会場には、本田さち夫人をはじめ、戦後、生活つづり方運動に取り組み中学生の作文教育に尽力した無着成恭氏ご夫妻もお見えになり、子供たちの演技に目を細めておられました。余談になりますが、現在、無着氏は大分の泉福寺という名刹のご住職で、この寺は今から六百四十年前に二俣にある栄林寺を開創した僧侶が修行されたということを後日聞き、意外なめぐり合わせに少しばかり驚きました。

公演の翌日には、ホンダ太陽を表敬訪問し、水族館や猿の高崎山などを見学した後、打ち上げパーティーが開かれました。子供たちも大変盛り上がりましたが、本田さち夫人が心からお喜びになられて、関係者にお酌をして回ったり、多くの人とカメラに収まっておられるご様子が印象深く心に残りました。四日間にわたる公演旅行は、子供たちの一部に若干の健康上のトラブルが生じましたが、大事には至らず、全員元気よく帰ってくることができました。

心に残る夏休みの思い出になったことと思います。最後の舞台を終えた時、事を成し遂げた充足感と、終わったことへの惜別の思いからか、多くの子供たちに涙が溢れ、声を詰まらせていた情景は、私にとっても忘れられないものになりました。



受付風景 (ピーコンプラザ)



ホンダ太陽 (株) にて

別府公演を終えて 出演者より ありがとう別府公演

二俣小学校六年 大角真名人

七月の別府公演では、多くの皆様に大変お世話になりました。

昨年、十一月の生誕百年記念公演が終わり、しばらくしてから、もう一度別府で公演ができると聞いたとき、ぼくは、とてもうれしかったです。そして別府公演の練習が始まる前に、もう一度本田宗一郎さんの本を読み返してみました。何回読んでも、本田さんの努力する姿勢や、ものづくりへのいきごみに感動しました。そして、さち様や別府の人に喜んでもらえるよう、歌やおしほいの練習をがんばり、みんなで別府公演を成功させようと思いました。

ぼくは、本田宗一郎さんのことはよく知らなかったけど、このミュージカルに参加して本田さんの強い意志と、やらまいか魂にあこがれ、本田さんのことが大好きになりました。

さち様、またいつかお会いできたらうれしいです。いつまでもお元気でいてください。ありがとうございました。

下阿多古小学校六年 酒井空

今回の公演は二回目でした。でも大分公演ということで、初めての経験がたくさんありました。わたしは飛行機に乗るのも初めてだったし、大分に行くことも

初めてでした。びっくりすることが多くて少し不安もあったけど、でもなんとか無事に終わってよかったです。無事に終わったのも、スタッフの方やメンバーのみんな、そして先生方などの協力があったから、すばらしい公演になったんだと思います。それにもうこんな経験は二度とないと思います。ちゃんと心の中に大分の四日間のことをしまっておきたいです。この公演がやれたのも、本田さちさんのおかげだと思います。ありがとうございました。

初めてビーコンプラザのホールに入ったとき、すごく広くて、練習のときも大変きん張りました。ぶ台うらでは出番が無いときは、きがえの手伝いをしたりしていました。自分の出番のときははいそいで反対側に回ったりして、ぶ台うらでもけっこういそがしかったです。本番が終わってはいく手になりやむと、ほっとした気持ちと少しさみしいような気持ちがありました。できればもう一度このメンバーで公演してみたいです。



ミュージカル「宗一郎物語」

光が丘中学校三年 三室輝佳

「さあ、やらまいか・・・」のフレーズ。今も私の頭の中をよぎっています。

昨年の壬生ホールでの公演の後、もう一度このメンバーといっしょにミュージカルを演じてみたいと思っていたところ、さちさんのご好意により、別府でミュージカルを演じることができると知らされ、申し込みをしてメンバーの一人として参加することができました。

思えば、四月からの四か月間、他の用事があってもミュージカルの練習を優先してきました。あつという間の四か月間でしたが、メンバーといっしょに過ごす時間はとても楽しかったです。

公演当日は、初めての県外公演で緊張しましたが、精一杯演じることができました。

私たちの演技をご覧になった障害者の方をはじめ九州の皆さんに、本田宗一郎さんのことを少しでも知ってもらうことができ、夢と希望を与えることができたものと思っています。

ミュージカルの公演の翌日、工場見学、観光地めぐりまでさせていただき、またレセプションでは、さちさんといっしょに写真を撮ったり、話をするのができ感激してしまいました。

私は、今回の貴重な体験をこれで終わらせるのではなく、いつも頭の片隅にしまっておいて、これからの人生のなかで、本田宗一郎さんのような生き方はなかなかできないと思いますが、苦しいことに直面したとき、本田宗一郎さんのことを思い出して、それを乗り

ものづくり継承施設決定の経緯

事務局長 鈴木益雄

天竜を象徴する人物と云えば、内山真龍、秋野不矩、本田宗一郎の三者であろう。真龍、不矩は既に資料館、美術館、がある。残るは本田記念館の建設である。

旧天竜市では、本田氏の偉業を讃え、次代を担う子供達にもものづくりの精神と、夢を求めつづけることの大切さを伝承するため、本田記念館の建設が検討され、ここ数十年をかけて構想を練り上げてきた。当本田宗一郎顕彰会もこの気運の中で、平成十五年の八月に発足。翌十六年三月には、本田家より宗一郎の遺品数千点が市へ寄贈され、記念館建設への期待が高まりをみせた。

平成十七年七月、天竜市外十市町村が浜松市と合併、新浜松市が誕生。その新市建設計画にこの事業が盛り込まれ、平成十九年度の当初予算に建設費が計上された。

平成十七年十二月には、(仮称)本田宗一郎記念館基本構想が示された。

その概要は、

・建設地は、市が所有する二俣町仲町の旧内山社団跡地

・建設費は、三億円

・施設の管理運営は一般公募とし民間に委託

平成十八年一月、「天竜ものづくり継承施設運営市民会議」が設置。以来八回の会議が開かれ、八月、市に対して施設の内容とその管理運営について提言書を提出した。この提言を受けて、市は、市議会総務委員会に天竜ものづくり継承施設基本設計を提案。

平成十九年一月、市は、本事業を「天竜ものづくり継承施設建設事業」として、二俣町諏訪町公会堂で、建設工事の概要を建設予定地周辺の住民に説明。

十九年二月の市議会定例会で、本事業について、建設地、事業規模、建設事業費等が可決。

当会の平成十九年度総会を六月十日に開催。そのおり、市より「本田宗一郎記念館建設事業」について当初計画通り新設するとの説明を受けた。

七月十二日、市から地元関係者に対して、当建設事業についての説明会があり、

ものづくり継承施設は、

・当初計画予定地には建設しない。

・二俣町旧庁舎を活用することとする。

との事業の見直しについて発表があった。(会長・事務局長出席)

七月二十一日には、市長が市議会文教消防委員会で、行政改革の一環として「本田宗一郎ものづくり伝承館

(仮称)」の計画見直しについて説明。

七月二十四日の地域協議会で、市からこの件について現況説明がされた。委員から、見直しについては地域協議会に諮問するか意見を聴くべきだとの発言があった。

八月八日、顕彰会理事会を開催。市から、計画の変更内容について説明を受けた。今後の対応について協議。

八月三十日、市は記念館の建設地と運営について地域協議会に諮問。

九月十三日、ものづくり伝承館の運営組織整備等について意見を聴きたいとして、市は、「天竜地域自治区意見交換会」を開催。

メンバーは天竜地区自治連合会会長、地元の自治会長、商工会、観光協会、地域協議会、ポンポクラブ、リリース、みがきの会の各代表、顕彰会からは会長、事務局長が出席。

二十九日には二俣公民館で市主催の「元氣な浜松懇談会」が開かれた。その席上、鈴木市長が伝承館建設の見直しについての考え方、方針を地域住民に説明。

十月一日に本田宗一郎記念館運営検討会が開かれ、ポンポクラブ、みがきの会の各代表、顕彰会から会長と事務局長が出席。

以下の市側の考え方を確認した。

・建物の新設はしない。

・施設の整備費は基金を充てる。

・管理運営は市民団体に委せる。

十月十六日、市から記念館建設等について諮問された地域協議会が

「諮問のとおり、旧二俣町庁舎の耐震補強を行い、

顕彰やものづくり教育の場とすることはやむを得ない」施設の整備や運営方法については、地域住民や関係団体の意見を聞きながら進めるよう意見を付け、要望として

- ・ 本田宗一郎の冠をつけた伝承館とすること。
 - ・ 人件費を含めた維持管理費は、市が負担すること。
- 等、八項目を付けて答申した。

十月十八日、第三回の理事会を開催、市から地域協議会の答申内容について説明を受けた。顕彰会として、答申に沿った市の計画を受け入れることとし、今後の取り組みについて協議。

十二月の市議会定例会において「(仮称)天竜ものづくり継承施設整備事業調査委託費」四百二十万円の補正予算として可決。事業は平成二十年度に実施設計、二十一年度に改修工事、同年十一月に供用開始となる予定である。

この計画に伴い、市は十二月から遺品の整理登録作業に入った。

本田宗一郎顕彰会は、事業見直しの経緯の中で困惑を極めたが、行政改革の大きな流れの中ではやむを得ない選択であるとして、本田宗一郎の人となりや顕彰するという所期の目的が達成されるよう施設の整備を期待し、事業への協力を惜しまない。



鈴木康友市長と天竜地域住民との対話集会



ものづくり継承施設として再利用される旧二俣町庁舎

本田宗一郎さんのお墓参り 富士霊園

本田宗一郎顕彰会の事務局職員で富士霊園を訪れ、本田宗一郎さんのお墓参りをしました。

霊園は広々とした丘の上であり、多くのお墓が、あちこちに整然と祀られておりました。

本田さんのお墓からは、大好きな富士山がくっきりと見え、富士スピードウェイからの爆音が聞こえ、宗一郎さんの終の住処として本当に相応しい場所と思われました。



H19.3.28 本田さんの墓標

おわりに

本田顕彰会会報第四号の発行に際し、多くの方々より寄稿していただき、誠にありがとうございますございました。

第三号の「おわりに」、次号は「本田宗一郎記念ものづくり伝承館（仮称）」関係を、予定してきますと書きましたが、急に方向転換となつてしまい、多くの方が落胆されました。一方、本田さち様より、「本田宗一郎生誕百年記念別府公演」の明るいお話があり、大変すぐれる思いでした。

さち様は、平成十八年十一月天竜公演記録の中で、天竜の子どもたちによって公演された、ミュージカル「本田宗一郎物語」を観て感激し、是非本田宗一郎の「心の故郷」ともいうべき別府の地で、みなさんにご覧いただき、常に夢を抱くことのすばらしさ、故郷や家族のありがたさ、ものづくりの大切さを感じとっていただきたいと、再び別府公演の運びとなったのです。十九年七月別府公演は、さち様の温かい心に支えられ、みなさんの喜びと感謝のうちに盛会に無事終了できました。

別府公演参加者の声より少し紹介します。

○さちさんのおかげで、今度は別府でやることになった。「うれしい」では足りないほどの「うれしい」でした。

○だんだん出番が近づくにつれ、心臓が飛び出るくらい、バクバクと音をたてたよ。

○本番が成功できたのは、いつも心をこめて、練習をがんばったからと思う。

○「やってみませんか」の本田さんのことばが、一番好き。やらなければ、夢が実現できないという意味だと思う。

○この公演を通して、自分自身をしつかりと、生きて行けるようにすることだと感じました。

末筆となりましたが、思いがけず、「綴り方教室」で、戦後の教育に名を残された無着成恭先生が、公演にかけつけて下さったことは、大変驚きであり、ほんとうに嬉しいことでした。ありがとうございました。

次号では、「本田宗一郎の人となり」を顕彰する施設整備と事業等の内容が掲載できると思っています。

どうぞご協力をお願いいたします。

理事 鈴木 かづ子

本田宗一郎顕彰会の会員を募集しています。

顕彰会は、郷土の偉人本田宗一郎の精神と業績を顕彰し、次の時代を担う青少年が夢を持ち、創造意欲を高揚し続けることができるように伝承活動をしていくことを目的とします。

■年会費について

個人会費 1口 2,000円
法人会費 1口 5,000円

■お申し込み方法

TEL、FAXまたはハガキで事務局までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先

本田宗一郎
顕彰会事務局

〒431-3314
静岡県浜松市天竜区二俣町二俣 501 番地
TEL・FAX 053-925-6122

遺品の一部紹介



[成功とは 99%の失敗に支えられた1%だ]
色紙の盾



愛用の絵道具と色鉛筆



携帯絵の具バックとかぶのスケッチ

本多宗一郎さんの絵画



秋 彩



スケッチブックより

本田宗一郎顕彰会

編集 理事 鈴木かづ子 事務局長 理事 鈴木益雄

〒 431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣 501 番地

TEL・FAX：053-925-6122

501Futamata Futamata-cho Tenryu-ku Hamamatsu City Shizuoka Pref. Japan

E-mail：tenryukokusaihonda@sunny.ocn.ne.jp